

論文を書くうえで避けて通れないものに文献検索があります。PubMed, 医中誌 Web などのコンピュータによる文献検索システムが普及してからは、ずいぶん簡単になりました。机に座ってキーボードを叩くだけで文献を閲覧でき、簡単な論文なら図書館に行かなくても書けてしまうほどです。しかし文献調べは以前は大変な労力と時間、忍耐力を要する仕事でした。ネットがない時代の文献検索がどのようなものであったか、私が若いころ（1980～90年代前半）の東大皮膚科での昔話をしましょう。

ある事柄について調べなければ、まず元となる親論文を探さなくてはなりません。最新の論文を探すために医局にある新着雑誌の索引でめばしい論文を探し（当時は英文誌にも12月号には索引がついていました）、重要そうなものをコピーします。それらをざっと読んで、文献リストから参照すべき論文をチェックし、医局の図書室にあるものは医局でコピーします。これである程度勉強し基本的なことが分かったら、次は医学部図書館に向かうことになります。

東大の医学部図書館はほとんどの医学雑誌が揃っていて大変便利でしたが、館内でコピーするとかなりのお金をとられるのが難点でした。そこで図書館で貸し出し手続きをして医局に持ち帰り、コピーして返却するのが普通のやり方でした。当時の皮膚科医局から医学部図書館までは200メートルほどで遠くはないのですが、合本製本した重い雑誌を何冊も抱えて3階の医局まで往復するのは大変です。労力を減らすためには、図書館でざっと読んで必要な文献だけをピックアップする作業が必要です。そこで土曜の午後などまとまった時間がとれるときを選び、丈夫なバッグを持って図書館に向かいます。半日ほど図書館にこもって、文献から文献へと芋ヅル式にたどりながら必要な論文を選び出し、該当ページに紙片を挟んで積んでいきます。持ち運べる限界の重さになったら貸し出し手続きをし、医局でコピーして図書館に戻って返却します。そしてこれを終わるまで（もしくは図書館の閉館時間まで）繰り返します。

和文の症例報告を渉猟するのはさらに大変でした。重くて巨大な医学中央雑誌を順番に見ていき、文献リストを作って各和文誌に当たらねばなりません。同じ病気がいろいろな病名で報告されていることもあり、やっかいな作業でした。

徒歩200メートルのところに大きな図書館があったのですから大変恵まれていた状況であったはずですが、それでも文献調べは大変な仕事でした。今では多くの英文誌が電子ジャーナルで読めるようになり、日皮会誌もすべて電子化されて大変便利になりました。しかし電子化には冊子体が売れなくなるという副作用もあり、本誌のような商業誌では経営面で難しい判断が必要となりそうです。

（相馬良直）

— 顧 問 —

肥田野信 大原國章

— 編集委員 —

大塚藤男 土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和

「皮膚科の臨床」第60巻 第4号 4月号

2018年4月1日発行（毎月1回1日発行）

定 価（本体 2,700 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

- 〔JCOPY〕＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。